

養鶏機器の説明を受ける東南アジアの養鶏業者ら＝各務原テクノプラザ、ハイテム



## 東南アジア養鶏業者100人

### ハイテムの機器見学

東京都で開かれた「たまごサミット2015」に出席した東南アジア地域の養鶏業者が、同地域への養鶏機器の拡販を進めるハイテム（各務原市テクノプラザ、安田勝彦社長）を視察した。

サミットは、日本と東南アジアの養鶏業者

が、生産法や防疫体制などを共有しようとするなど、日本養鶏協会、日本卵業協会などが主催し、農林水産省などが後援した。インドネシアやフィリピンなど15カ国から約200人が参加し、防疫やワクチン、生産設備、鶏糞処理などについてシンポジウムを行った。

ハイテムの視察は約100人が参加し、社内の展示場などで機器の説明を受けた。東南アジア諸国では、1人

当たりの卵の年間消費量が、現在の数十個から将来的には300個に増加すると予想されており、来場者は真剣な表情で設備を見学していた。